



雪あかりの動物園2014年2月6～11日  
開園時間を夜7時半まで延長！(入園は7時まで)

# ASAHIYAMA ZOO

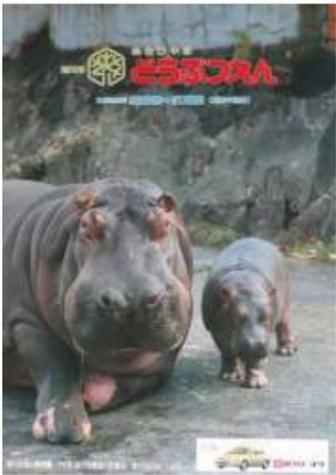
発行所  
旭川市旭山動物園  
動物図書館  
☎ 36-1104

11月27日の夜、飼育展示係員が見守る中、カバのザブコは死亡しました。49才でした。新施設きりん舎・かば館へ動物たちの引っ越しが行われたのは10月末のこと。当初、引っ越しは高齢のザブコにとって負担が大きすぎるのではと心配されていましたが、ザブコの体調も良く、その心配をよそに無事に引っ越しは完了しました。引っ越しから2週間ほどたったころには、ザブコは徐々に新しい寝室にも慣れ、そろそろ放飼場にも出られるのではないかとこのほど順調にすごしていました。その矢先、思わぬ事が起きました。ザブコは寝室内を移動中、プールへすべり込むように転んでしまいました。13日のことでした。それ以来、ザブコは寝室のプールから上がることなく、水に入っまま過ごしました。徐々に食欲は落ちていき、それでも飼育展示係員の手を借りながらエサを食べていました。25日からはザブコの健康を考え、栄養補給などを行っていましたが、皆の願いも届かずザブコは27日、ついに力尽きました。



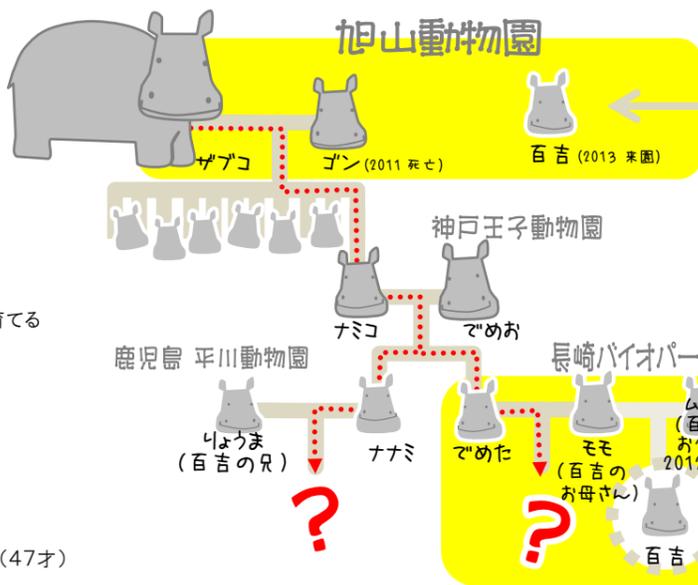
## 旭山の歴史とともに生きたカバのザブコ

旭山動物園が開園した46年前からザブコは総合動物舎でくらしていました。50才を目前に、旭山の歴史を見守ったザブコの一生に幕がおりました。



1993(平成5)年旭山動物園のポスターザブコ(左)とナミコ(右)

- 1963. 12. 2 重吉と福子の間に生まれる  
:名古屋市東山動物園  
~北海道へ引っ越し、  
帯広動物園で冬をすごす~
- 1967. 6. 13 旭山動物園にやってくる
- 1967. 7. 1 旭山動物園開園  
総合動物舎でゴンとくらす  
オスのゴンとの間に7頭の子どもを育てる
- 1971. 12. 21 オス
- 1974. 1. 26 メス
- 1977. 7. 24 オス
- 1979. 7. 31 メス
- 1981. 1. 20 オス
- 1984. 9. 17 メス
- 1992. 9. 16 メス "ナミコ"
- 2011. 12. 27 オスのゴン死亡(47才)
- 2013. 7. 3 オスの百吉 来園
- 2013. 10. 30 総合動物舎から  
きりん舎・かば館へ引っ越し



ザブコの孫にあたるナナミとでめたが、ペアリング(嫁入り・婿入り)をしています。偶然にも百吉の家族との結婚です。

日本各地の動物園でザブコの子どもや孫たちが命をつないでいます。

そして、百吉はこれからの旭山をザブコのように何十年も見守る存在になることでしょう。

ここ数年は、3日に1度の展示でした。寝室では、ゆっくりすごしていました。



動物園裏側探検などのガイドでは寝室ですぐザブコに会えました。



一生のほとんどを旭山ですごしたザブコは、長い間、たくさんの人に親しまれました。ザブコのもとには思い思いの「ありがとう」が寄せられました。

## ザブコ、49年間、お疲れさま。そして、ありがとう



菅野浩「ザブコの子育て」(『きたの動物園』旭川叢書、1997年p35)

ザブコは性格がきわめて温和でよく人に馴れていて、私たち飼育係員が背中に乗ることもできる程でした。寝ている傍に近づいてお腹をなでてやると、気持ちよさそうに目を細めていました。妊娠した時には、寝ている傍らに行き乳房の張り具合を調べて、出産の時期を推定したりすることもできました。



あべまいこ「おしゃべりどうぶつえん」(絵本館、2008年p48)

「ザブコー」と大きな声でよんでみると、ザブコはザバーッと顔をだしました。そして大きなあくびをしながら、「あら、もゆちゃん。きょうはおてつだいじゃないの?」と聞いてきました。

2頭が顔を合わせるの、3年ぶりのことです。嬉しかったのでしょねえ。すぐにコンはザブコの側へ駆け寄り、横に並んで頭を上下しながら横顔をこすり合わせていました。全身から蒸気がモワァ〜と2頭を包み込んでいます。四つの鼻の穴からは、フオ〜、フオ〜と蒸気機関車のような鼻息が吹き出していました。



小菅正夫「カバのカップル」(『あさひやま動物記②』角川書店、2011年p126)